中学生の部

*作品は原文のまま掲載しています。

°がかーな頃

事らスくニ

故通をなユ

に学見らし

巻やるなス

き買といで込い、の交

ま物同だ通

れなじろ事

るど中う故

かで学しの

も自生とこ

し転と考と

れ車しえを

なをてま目

い利他すに

とし事特る

感てとにた

感てとににじいに自び、るは転に、

怖の思車

仰くなる: いで、「も ・ ・ が関係す

ることかっることか

一用人

す視てと号 いしたすませ がし自事ん 次 °しく思で私まま」 °すで自あた分故な私

こ聞っよだも

と実つまも合

出わ

城 県 知 事 賞

転 車 「乗る私 が大切 した

百 玾 町 立 吉 田 一中学校 年 布 Ш 悠

希

だうスま をもん夜守介ス いるまにき ともピす交知の °にるさでさま人す合や次 思の | °通らで暗自たれはらすも °わ広に いだド自安せすい転めて、にまかで分全る。道車だいへ「すら走がによ私でをとまルへ」。こっ合っるけけ使用してい つ急つうはは使思しメル そたいいに夜、うったッメ すい考て出分きか少をト 相多てえいかがにぶしかを 手のは、とすることであるまけ思はる面がない。 とすることするでは、信き。 としてラうだてる 場自号、 きいイにといる 手 場自号 きいイにといこ はるトし感たと、以をてじお 分を私 な別とは 手視 -必上点いるかも ずにけまとげと なし思 行たい ラドるすきでて イラ」。も命も え動りであるで、り トイこ あが大 す歩 をバと り助切 つしも まかで が造者一 けか忘 すっす が弱の番 がた。 てられ 、はて 事故を防ぐ近時はみんなではなった。 自い際分うに 周見は りえいににけ の例二 存くま 命もユ 近使猛い 在いせ を紹丁

てるっ止がすすとニしす転りらもの事はしのてま普。。いっ、。車ま自普二故、 まで渡る段い、つの気 だう | 場大はす分段ユが日 るにか道切 か話ス合丈と の学っをな で校た走の、のりるはい近、と がとてはを ちてし当つ らをでに夫て なので、おけているので、からなのでです。 つく歩きス でや行はピ も住者 `1 転加と車思乗 私すいすの は。まがは 正字やつド 車害歩とつり に者行同て物 ま街車いを 必自す、まず転。中ず れでに速出 乗も者じしで るはぶくしよ、つ走す る被がくます 青車しに と害ぶらいが ににかは「信 き者ついが、 う小かりぎ にさったな のもか危ち同 スなてくい ピ子しなこ 交苦り険で時 通し `なすに まて単か必ず ーどまりと 安い大存が事 で待つようにしているときほど、信味ていないから大きないから大きないから大きないから大きないから大きないから大きないからない。 ドもっま 全思け在、故 をやたすで はいがに実の 控急りがすえにす、。 とををな際危 てすさっは険 もるせてスと大のてしピも る飛るブ坂 よび危レ道 て信く大す。 切だしま)隣 う出険しを だとまいドり にしがき下 まをづ夫赤無い一信 してあがる てくり間と 思感

な考に険がびなれまん事る方なやでた故す意のにで動をおはな恐よのえあ性私けかけばだ。故方々一理「見がこに。を二一よいき確そ一、こ怖私う車で、るのがるけれ、まそを々だ方由理か、こつたしつつるな出認らつ大とははには で、るのがるけれ、まそを々だ方由理か、こつたしつつるな出認らつ大とははにはす見、も、人をば事だれ無なけでで由け速まなまて目の事いししく目きが今昨危速での原っ車がすい故いはくどで、危がま度でがにもがミ故時、、こがく起で年険くけ因とに増るけはる誰すでな事険あす超はる二、「スはに危私れ、分きも、なてた、先つえ。な減かか努すく故なっ。過、危列急歩で渋車うとが車けてま下面便課そのいれ運いりらに力。、を行てそやミな以な行危滞がく友原側でしざ校も利題しこてば転とまで任をこ地減為仕の飲スい上飛者な中進ひ達因の二まま中あでのてと一、中思せはせしん域らを方加酒や行にび等いなむかがだミつっざにりずで、中思せはせしん域らを方加酒や行にび等いなむかがだミっっざいます。 のてと一、中思せはせしん域らを方加酒や行にび等いなむかがだミつっざにりで、で人事はいん無ててななすすな害運注為並出の場ど「れ道つスあたと、まま善そす一故集ま。い努いにどたるか者転意だんし注面にクそ路たなりの思車すをれ。人は中すなで力まものめのつのな不とだな意が起りうをとどまでいに呼を車が大し。のしをす多ボにはたほど足思自ど不生きーに渡思」すし出はい路の考幅で例でよし。くう活、」とのない転に足じやプなついで。よすもかまえに運と、うなそのン動絶とん悪どま車はなるす現ってます。うこらけえるる減転し自かいれ方テし対語ど質のすや反どこい象たいす。かとれてはべるすて分。人な々ィてにつがな悪。歩応」とそ一のま。私でおそれではべるすて分。そのがアい許て、行意行うででがうとでし車が、そのかに、のろせいこ為の、表かすあでいすたがひ、の来に 0 0 ミス 大き 者かすったがひもね。りすった。変かれる事は、もこす差れ の来に 原まな 因す。 ま 見る甲ょ もこったれる かこ側すこのれる点そ けとが のだはとでう す よと 、 停に しでし に よそ、、停にううブそ止な てはた。 考 すあん な にでレのしつド、一途てた えなそ がるな たりのえを減やしていかが、対しているとうでは、対しているまりているまりている。というないでは、 と思って話して話し こをずは、 とに らぜの そ重 ラこキ中いと そ思ミ れそ時 イのをでるき バ現踏車こは、 分たなま るの感 が点そ車 れいス 爆 もまに こようた 弾 大的のの どし 心呼しけが 一象んがと 切に先危 でれの 手 事 注 0

宮 城 察 本 部 長 賞

に つ て一人一人が考えるべきこと

車

岩沼市立岩沼中学校 三 浦 快 斗

で

な

事

故

0

が

る

中学生の部

*作品は原文のまま掲載しています。

時

を落とすことなく、

車

-が走っ

きた

城 県 教 育長 賞

の 日 の 出来事

あ

石巻市立石巻中学校 年 鈴 木 優 日

はいた の にてい 無 `車「だそス走たこ「 「車両と危 °のピ行 °れド Ì だドて たった。右側・下をゆっくりが、信号は共和が六年生の 動から、これが があるとした は黄色に いた。 、スピードを落とすしていた。 おり、日母はいるを選べる 母つま はも で、 時り家 停止する族で出 る注か た意けて

*作品は原文のままま

「たない。できます。
「たない。「たったこともあり、損傷が少なく中に乗っていた人は無事だったとという。
「たったかもしれない。そう考えるととている。ないと思った。私の頭の中は事故のことでいっぱいだった。もしている。でもしている。事はでもあっちがと当である。ととている。でもしている。である先生、交通量の多い交差点で黄色いたら、家族全員無事ではいられないと思った。もしっかりとき、刺っていた人ではない。歩行者だってそうだ。急にとないのは、東で描いない。歩行者だってそうだ。急にとないのは、東を運転している。ないとからようでもありがはするととても恐ろしくなった。もしないと思った。からようでがます」と必ず言う。この出来事は、私がらたいます」と必ず言う。この出来事は、私がらたっていた人になり、車の発きで分かった気になっていたのよれない。そうその時によいるがとさは、ものとさらである。ととても恐ろしくなった。そして、この出来するととても恐ろしくなった。ないたのから、先生やディアウかった気になっていた人がときまりを守らなければいけなった。今まで分かった気になっていたのもれないます」と必ず言うようにしている。こればいけないたら、東を行者だってそうだ。急にとび出したり、道路で遊んだり、でから思う。そして、この出来事を通じて、感じたって乗れる人であるうといなというない。

般

社 寸 法 人 宮 城 県

交通

安 全 協 会

長

台市立折立中学校

年

林

奈

瑚

実際にはどの位の裏息をつく。こんなに気が大人の不注意で命をのニュースを読んでいる。 光景を記せれる。 意かっ んと 見域渡って 事毎をいス故日落る よな

さな行

令和7年度宮城県交通安全ポスター作文コンクール入賞作品 【作文の部】

中学生の部

*作品は原文のまま掲載しています。

城 県 Р Т Α 連 合 会 長

賞

安全に暮らすため

市立折立中学校

石

井

計全のたで自何 なの通組実通 いの目断分せす家交 まえにひてでに °の横ち二す分か一私どす安織践安交ま方が中自な °族通そしばひいいす `私 ご授断につ °の事つががべ全がし全通すの見 '身いそも事こた学どてた °横は ときたん悲故で °校いしける断、 てさす全のた こ授断につ いとの業をも目 とで世で手では、 「強く願っています。」
「強いっています。」
「強断中」の旗を立てて安全に構断することや学校、「横断中」の旗を立てて安全に横断することや学校というかにないさんあるからです。例えば小さい子や障がしたがたくさんあるからです。例えば小さい子や障がないたりにもできることをするということです。なぜに 路の利用者を対象に交通ルー会などを開き、歩行者や自転通安全のポスターやチラシをを防止することを目的とした、国民に交通安全思想を広めするために、全国の都道府県 でかる。 とり身た、のはめ 自分の身が危険にさらされることになるから人に起こったときに、、先に周りの人を助け自分で守ると心がけることです。なぜなら、に必要だと思うことは二つあります。 |転をため県 ル車一運てで や利般動い活 マ用のやき動ナ者人、し マ用い、 ナ者人、`し ー 、々交交て マデ届い を自に通通い を教えていることを教えていることに正確を基準であるというできます。そのできませんが、そのできませんが、そのできませんがあることには、交のできません。 か一人でも増えにするために小は一人でも増えために小学校の交通安での方面安

でもまれの歩小 断ない守めなしに私 をいうるにことをする 手人旗たとをすて自 伝やをめ私に背した。 つり、ことをする。 はのつどと道学交だた、きを校通っ車私に赤四 伝ったりすることが、子供である私達にもできることだとですが聞こえない人、体が不自由な人などが該当する障害めにも、家族を守るためにも、横断している人がいます。」と車に合図したりぬにも、家族を守るためにも、横断している人がいれば、他たちにも協力できることがあるのではないでしょうか。にはならないために、車を運転している人にそんなことを自負って生きていくことになってしまうかもしれないからくしまえば、誰も幸せになれず、交通事故にあった 本人自分たちにできることはないのだろうかと考えました。も 安たのはは信年 全の人怖周号生のかとくりでの 授と周ての渡時 業痛り一人つに は感の歩がた忘 はら始おのがを や学めび所目し つ校てえにのま てにいて走前し だ障たばかとか本。と害り、。をら人も思考、こっちで `「自さでやし 思者 いいなをげ験

作文の部 応募作品数

小学校1~3年生の部 2 1 作品

小学校4~6年生の部 40作品

中学校の部 3 7 作品

合 計 98作品